

「つながる北陸」新幹線レポート：vol.2 福井駅

北陸新幹線敦賀開業に関する北陸・首都圏・関西在住者の意識調査
— 福井が開業効果を最大限活かすために —

【要旨】

- ・ 2024 年春、北陸新幹線は敦賀開業を迎える。新たに新幹線が開通する延伸地域をはじめ、北陸各地では、開業を見据え、効果を最大限に活かす取り組みが進められている。
- ・ 日本政策投資銀行(DBJ)では、北陸・首都圏・関西在住者(※)を対象に、北陸新幹線敦賀開業に関する意識や福井に対するイメージ等を把握するため、インターネットによるアンケート調査を実施した。
 - ・ **敦賀開業の認知度**：北陸では 9 割が開業を知っているが首都圏での認知は低く半数が「知らない」結果となった。首都圏に向けたさらなる発信により認知度を高めることが重要である。
 - ・ **開業による自身の生活への影響**：福井在住者の半数が「(あまり)ないと思う」と回答し、開業による変化を具体的にイメージするにはまだ至っていないようだ。今後、住民が新幹線を身近に感じられる取り組みを地域・関係者一体でより一層進め、県内での意識醸成を図っていくことが望まれる。
 - ・ **開業により想定される具体的な変化**：福井と首都圏、富山と関西、富山と福井で、相互に「観光で行きやすくなる」との回答が多かった。特に富山在住者は、「開業後福井への訪問回数が増える」との回答が他エリアに比べて多く、福井への新たな誘客が期待できる。
 - ・ **泊まってみたい宿泊施設**：旅館の人气が高く、福井への訪問の動機にもなっている。福井に対する「温泉」のイメージも一定程度あり、宿泊施設と周辺地域の充実により魅力あるエリアを創出することで、満足度向上・宿泊を伴う訪問に繋がられる。
- ・ アンケートでは、石川及び富山在住者に対し、2015 年金沢開業前後の意識の変化についても尋ねた。半数以上が金沢開業後、自分の地域のイメージが「(少し)良いほうに変わった」と回答した。大都市との距離が縮まり利便性が高まっただけでなく、新幹線を契機にまちづくりが進み、域外から評価されることで、地域への愛着(シビックプライド)が高まった面もある。現駅に併設される新幹線「福井駅」には、公共交通や人、情報が集まる交流拠点としてのみならず、金沢駅や富山駅と同様、シビックプライドにつながるランドマークの役割を担い、福井全域に地域価値向上をもたらす「ハブ拠点」となることが期待される。
- ・ 敦賀開業後の北陸新幹線に「乗ってみたい」意向は居住地を問わず高く、敦賀開業に対する期待が高いことを示している。①まだ魅力を伝えきれていない首都圏への発信、②県内の意識醸成、③富山を中心とした北陸地域内の需要喚起、④地域住民の満足度を高めるまちづくりを進めることにより、人々の期待を実際の誘客と持続的な地域価値向上につなげていきたい。

(※)アンケートの対象は、北陸：福井県・石川県・富山県、首都圏：東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県、関西：大阪府・京都府

(北陸支店 飯田一之、宮原史英子)

2022 年 11 月

株式会社日本政策投資銀行北陸支店
(協力：株式会社日本経済研究所)

目次

1. 北陸新幹線敦賀開業により'つながる'北陸
2. 北陸新幹線敦賀開業に関する意識調査
 - (1) 北陸新幹線敦賀開業の認知度・関心度
 - (2) 北陸新幹線敦賀開業により予想される生活の変化
 - (3) 福井への訪問経験と主な移動手段
 - (4) 福井に対するイメージと往訪目的
 - (5) 敦賀開業後の福井への往訪回数と往訪に結び付く動機
 - (6) 宿泊日数の変化・宿泊したい施設
 - (7) 福井-首都圏間の移動ルート（敦賀開業前後）
 - (8) 乗換の負担と福井への往訪回数
 - (9) 金沢開業による石川・富山在住者の意識の変化：① 自分の生活
 - (10) 金沢開業による石川・富山在住者の意識の変化：② 自分の地域のイメージ
3. アンケート結果からの考察（目指すべき方向性と取り組むべき課題）
4. 福井開業を最大限に活用するために

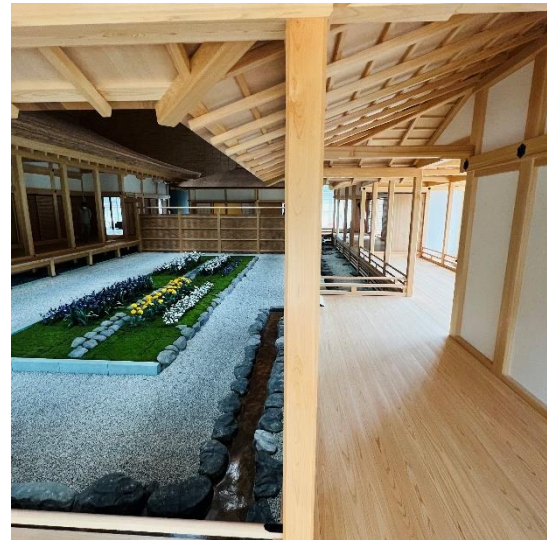
【Appendix】

1. 足下の北陸での'つながる'動き
2. 北陸新幹線敦賀開業により新たに設置される駅の概要
3. これまで公表した新幹線/観光関連の当行レポート

「つながる北陸」新幹線レポートシリーズについて

北陸新幹線敦賀開業に伴い、新たに6つの駅(小松駅、加賀温泉駅、芦原温泉駅、福井駅、越前たけふ駅、敦賀駅)が設置される。日本政策投資銀行北陸支店では、敦賀開業を迎える北陸地域の各エリアに焦点をあて、北陸新幹線開業が地域にもたらす影響や変化、開業効果を最大限に活かす視点について考察するレポートを複数回にわたり取りまとめる。第二弾となる本稿では、福井駅(福井県福井市)を取り上げる。

【福井六景】



(写真) 左上段「養浩館庭園」、右上段「越前大仏」、左中段「福井鉄道福井駅」、右中段「福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館(愛称：あさみゅー)」、左下段「福井の郷土料理(お幸ざい)」、右下段「acoya」(すべて当行撮影)

1. 北陸新幹線敦賀開業により‘つながる’北陸

- ・ 北陸新幹線敦賀開業が 2024 年春に迫ってきた。敦賀まで延伸することで福井県と首都圏が繋がるだけでなく、2015 年の金沢開業以降、金沢駅での乗り換えを余儀なくされていた北陸三県(富山県、石川県、福井県)が再び新幹線で繋がり、県都間が 1 時間以内で結ばれることとなる。北陸地域内の交流促進が期待されるほか、域外からの来訪者増加により地域経済が活性化することはもちろん、人流や物流、心象風景が大幅に変容することから、北陸全体に大きな変化をもたらすことが予想される。
- ・ 当行では「つながる北陸」をテーマに、敦賀開業を迎える北陸地域の各エリアに焦点をあて、北陸新幹線開業が地域にもたらす影響や変化、開業効果を最大限に活かす視点について考察するレポートをシリーズで公表している。第一弾「“the ECHIZEN”～越前たけふ駅が呼び覚ますゲニウス・ロキ～」(2022 年 9 月公表)では越前たけふ駅を取り上げ、新たな駅が地域にもたらす効果や役割についてまとめた。
- ・ 第二弾となる当レポートに向け、当行では、1 年半後となった北陸新幹線敦賀開業に関し、北陸・首都圏・関西在住者の意識や福井に対するイメージ等を整理・把握するため、インターネットによるアンケート調査を行った。
- ・ 本稿では、アンケート結果を踏まえ、初めて新幹線開業を迎える「福井駅」を取り上げ、新幹線「福井駅」開業の効果を最大限に活用するために取るべき方策について考察する。

【調査概要】

- ・ 調査対象：福井、石川、富山、首都圏(東京、神奈川、埼玉、千葉)、関西(大阪、京都)在住の 18 歳以上の男女。
- ・ サンプル数：各エリア(北陸地域は各県)それぞれ男女各 170 名ずつ、合計 1,700 名。
- ・ 年齢階層：各年代(18～29 歳、30～39 歳、40～49 歳、50～59 歳、60 歳以上)で均等になるよう設定。
- ・ 調査時期：2022 年 10 月 24 日～27 日の 4 日間（インターネットによる回答）
- ・ 実査委託先：楽天インサイト

2. 北陸新幹線敦賀開業に関する意識調査

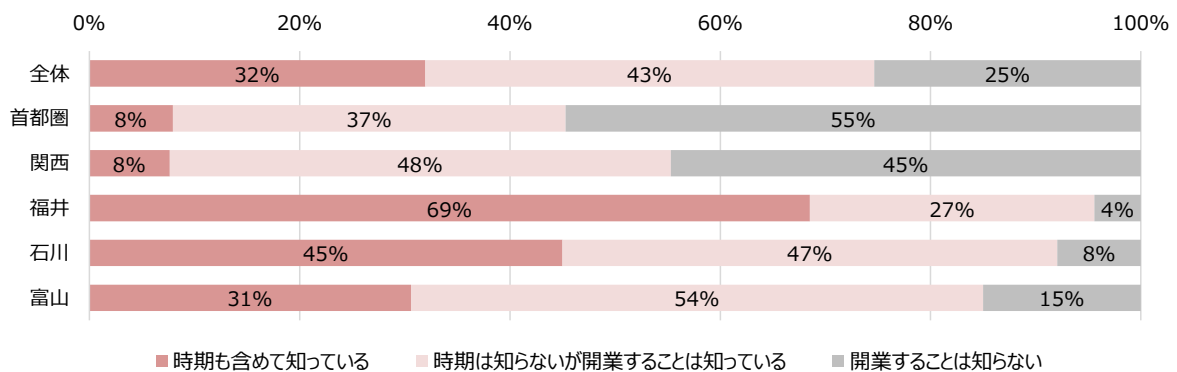
(1) 北陸新幹線敦賀開業の認知度・関心度

敦賀開業の認知度は、北陸で極めて高いが、首都圏では「知らない」が過半数。関心度は地域を問わず高く、7-8割が乗ってみたい意向を示す。

- ・ 敦賀開業を知っている人の割合は全体で 7 割を超えており、うち 3 割が「時期も含めて知っている」と回答した。居住地別では、福井県で 96%と最も高く、認知は浸透している。一方、首都圏では 55%、関西では 45%が敦賀開業について「知らない」結果となった。北陸以外－特に首都圏での認知度向上が求められる。【図表 1】
- ・ 敦賀開業後、北陸新幹線に乗ってみたいかを尋ねた質問では、「(どちらかと言うと)乗ってみたい」との回答が全体で 8 割あり、関心は高い。居住地別にみると、北陸での関心度は三県ともに 8 割を超えている。認知度がまだ高くない首都圏・関西エリアでも、「(どちらかと言うと)乗ってみたい」が 7 割強となった。開業後に向けては、「乗ってみたい」意欲を実際の乗車に繋げる工夫が求められよう。【図表 2】

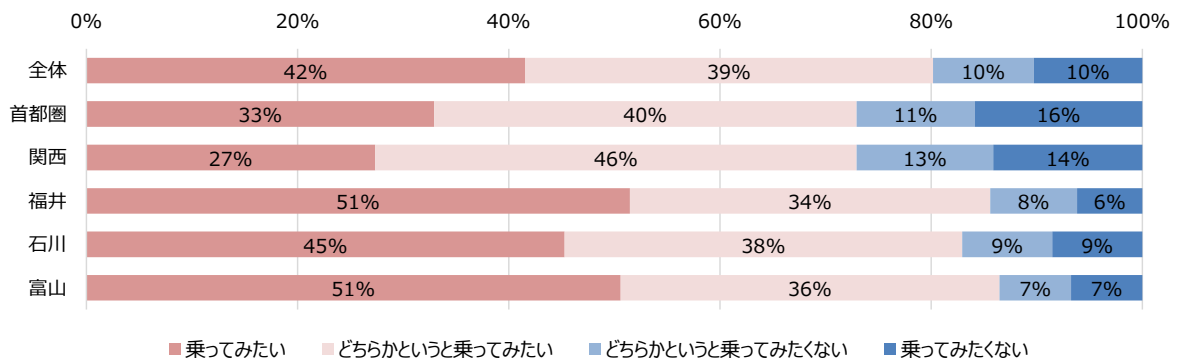
図表 1：居住地別・北陸新幹線敦賀開業の認知度

あなたは、2024 年春の北陸新幹線敦賀開業を知っていますか。【対象者：全員(n=1,700)】



図表 2：居住地別・北陸新幹線敦賀開業の関心度

あなたは、北陸新幹線敦賀後、北陸新幹線に乗ってみたいです。【対象者：全員(n=1,700)】



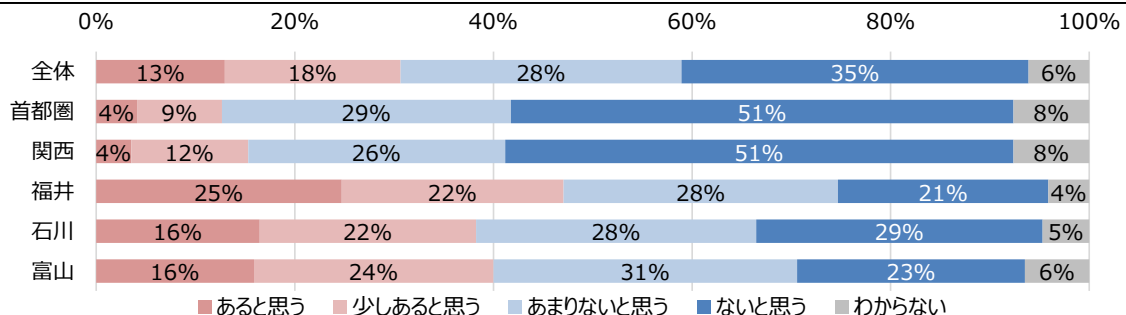
（２）北陸新幹線敦賀開業により予想される生活の変化

開業による生活の変化について、具体的なイメージはまだない。観光では福井-首都圏、関西-富山、福井-富山など「行きやすくなる」地域もあるが、ビジネスでは訪問機会に変化はない。

- ・ 敦賀開業により想定される自身の変化について尋ねたところ、「あると思う」「少しあると思う」との回答は、首都圏・関西では 1 割強に過ぎず、北陸三県でも 4 割前後となった。新幹線開業による自身の生活の変化について、具体的なイメージはまだなさそうだ。【図表 3】
- ・ 敦賀開業により想定される具体的な変化についての質問では、観光目的の訪問機会の変化に関する項目で「当てはまる」「まあ当てはまる」の回答率が高くなった。特に、福井と首都圏、富山と関西、富山と福井で、相互に「観光で行きやすくなる」との回答が多い。一方、ビジネス目的では、観光目的に比べ訪問機会が増えるとした回答割合は低い。【図表 4】

図表 3：居住地別・敦賀開業により想定される生活の変化

新幹線敦賀開業により、生活に変化があると思いますか【対象者：全員(n=1,700)】



図表 4：居住地別・敦賀開業により想定される具体的な生活の変化

新幹線敦賀開業によりもたらされる変化には、どのようなものがあると思いますか【対象者：前問で、変化が「あると思う」「少しあると思う」と回答した回答者(n=521)】

↓具体的な変化の項目	居住地→	首都圏	関西	福井	石川	富山
観	首都圏に行きやすくなる	46.5	17.3	54.4	9.2	11.0
	関西に行きやすくなる	16.3	42.3	-0.0	44.6	75.0
	福井に行きやすくなる	81.4	42.3	1.3	17.7	60.3
光	石川に行きやすくなる	55.8	53.8	27.5	-20.8	25.0
	富山に行きやすくなる	60.5	55.8	47.5	-39.2	13.2
仕	首都圏に行く機会が増える	2.3	-15.4	-26.3	-25.4	-30.9
	関西に行く機会が増える	-7.0	1.9	-51.3	-14.6	1.5
	福井に行く機会が増える	7.0	-7.7	-34.4	-43.8	-30.9
	石川に行く機会が増える	-4.7	-13.5	-44.4	-43.8	-30.9
	富山に行く機会が増える	-7.0	-7.7	-41.9	-60.8	-36.0
そ	進学先の選択肢が増える	0.0	-48.1	-27.5	-36.2	-5.1
	帰省(家族・親族の訪問)の回数が増える	4.7	-51.9	-20.0	-41.5	-16.9
	就職先の選択肢が増える	-2.3	-44.2	-31.9	-36.9	-9.6
	買い物先の行動範囲が広がる	-9.3	-9.6	3.8	-18.5	1.5
	通勤や通学の移動手段を変更する	-30.2	-36.5	-57.5	-50.8	-50.0
他	移住や引越先の選択肢が増える	-4.7	-17.3	-37.5	-37.7	-39.0
	自県に観光客が来すぎて、普段の生活に支障が出る	-20.9	-25.0	-62.5	-29.2	-49.3
	これまで宿泊を伴っていた場所への往訪が日帰りになる	2.3	0.0	3.8	-10.8	11.0
	敦賀での乗り換えに不便さを感じる	-7.0	-9.6	26.3	20.0	13.2

(注) 数値は、それぞれの項目について、「当てはまる」「まあ当てはまる」の割合と「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の割合の差を示している。値が大きいほど、その項目について「当てはまる」「まあ当てはまる」の回答率が高い。

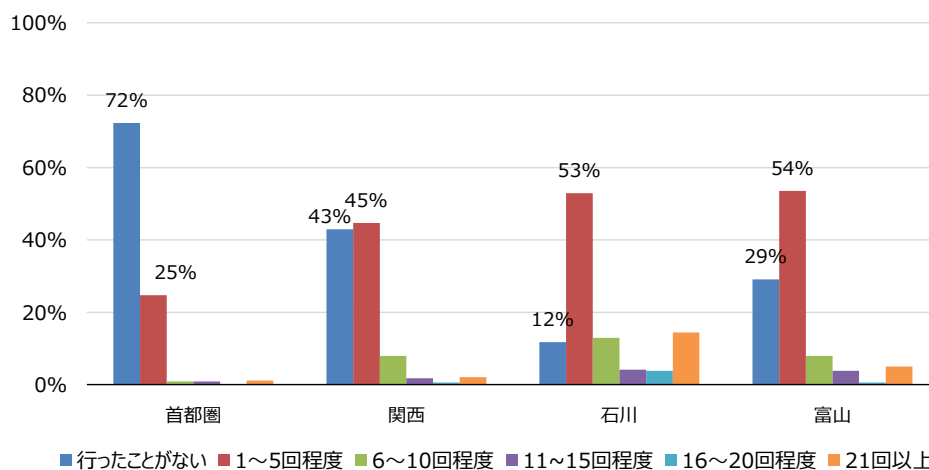
（３）福井への訪問経験と主な移動手段

首都圏在住者の 7 割強、富山在住者の約 3 割が 5 年以内に福井を訪問していない。往訪回数(5 年以内)も「5 回以下」が多い。主な移動手段は自家用車であり、特に北陸地域内では太宗を占める。

- ・ 過去 5 年間の、福井県への訪問経験を訪ねたところ、「行ったことがない」を選択した回答者は、首都圏で 7 割、関西では 4 割となった。北陸では、富山在住者の約 3 割が福井への往訪経験がなく、石川在住者の回答と差がみられる。敦賀開業により所要時間が短縮されることで、これまで来訪回数が少なかった地域からの誘客が期待される。【図表 5】
- ・ 最近の福井訪問の際の移動手段について尋ねたところ、「自家用車」が最も多い。特に北陸地域内では車移動率が高く、石川在住者 80%、富山在住者 70%が選択した。【図表 6】

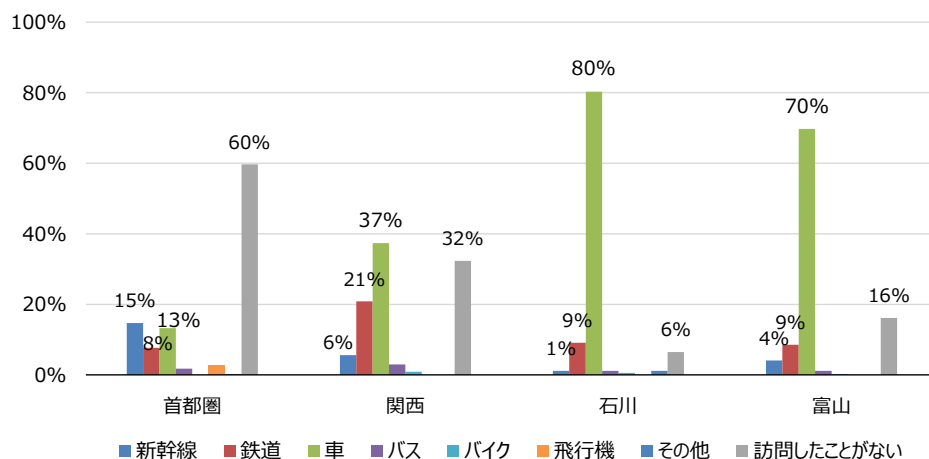
図表 5：居住地別・福井県への往訪回数

過去 5 年間に福井県に行ったことがありますか。（ビジネスでの往訪も含む。通過は除く）【対象者：全員(n=1,700)】



図表 6：居住地別・福井県への最近の往訪の際の主な移動手段

福井県への最近の訪問について、主な交通手段は何ですか。【対象者：全員(n=1,700)】



（４）福井に対するイメージと往訪目的

福井に対するイメージは「自然」「食・酒」「温泉」。首都圏在住者の３割は「イメージなし」。

- ・ 福井県に対するイメージを尋ねたところ、上位は「自然」「食・酒」「温泉」となった。福井在住者が自県に持つイメージの順位も全体回答と同様であるが、回答率は他エリアの在住者の割合と開きがある。特に、「温泉」「自然」で首都圏との差が大きく、PR 余地があるのではないかと。また、「特にイメージはない」の回答も全体で２割程度あり、特に首都圏在住者で３１％と高い。【図表 7】
- ・ 福井県往訪の目的を尋ねたところ、全体では「食・酒」「観光地巡り」「温泉」の回答が多い。福井在住者の回答の差では「自然体験」が大きく、福井在住者が知る「自然」の魅力を発信する余地がありそうだ。【図表 8】

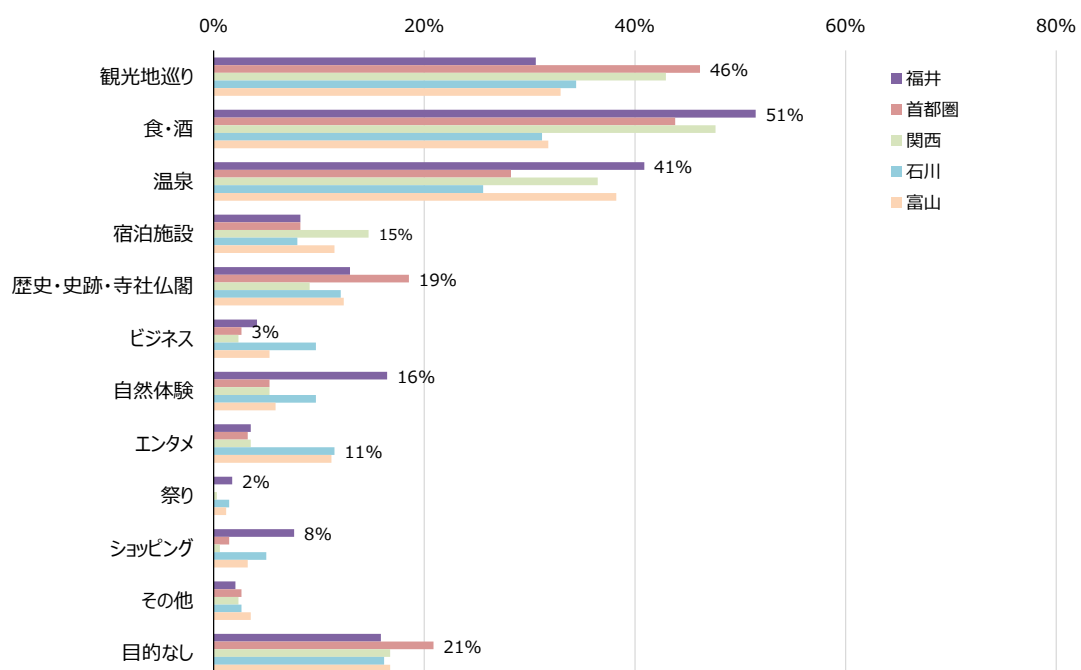
図表 7：居住地別・福井県に対するイメージ

福井県について、あなたが持っているイメージはどのようなものですか。（当てはまるもの３つまで）【対象者：全員(n=1,700)】

↓居住地	食・酒	温泉	歴史・史跡	産業	伝統工芸	自然	寺社仏閣	祭	その他	イメージなし
福井	56%	43%	20%	4%	17%	57%	9%	1%	4%	11%
全体	35%	32%	18%	6%	13%	36%	11%	0%	7%	21%
首都圏	31%	16%	19%	4%	15%	23%	9%	0%	6%	31%
関西	34%	34%	15%	4%	13%	33%	4%	0%	6%	22%
石川	29%	30%	17%	9%	12%	36%	15%	0%	9%	17%
富山	24%	35%	19%	11%	7%	31%	16%	0%	10%	21%

図表 8：福井県の往訪目的

福井県に往訪するとすれば、何を目的に行きますか。（当てはまるもの３つまで）【対象者：全員(n=1,700)】



（注）当てはまるもの３つまで回答。福井県在住者は、県内への往訪を想定して回答。

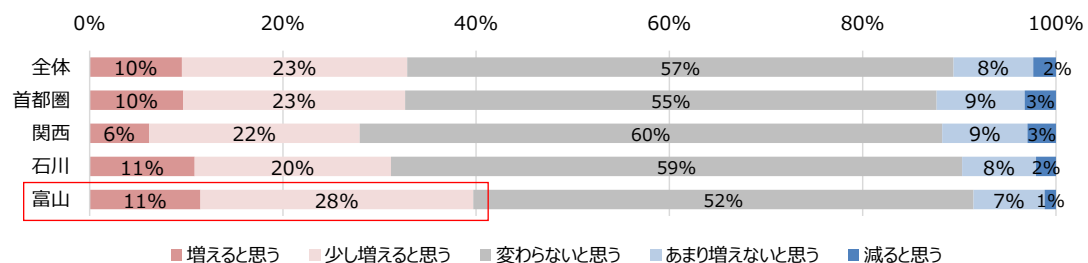
(5) 敦賀開業後の福井への往訪回数と往訪に結び付く動機

富山在住者の 4 割が「敦賀開業をきっかけに福井への往訪が増える」と回答。「交通費」「行ってみたい観光地」に次いで「泊ってみたい宿泊地」の有無が往訪に繋がる動機。

- ・ 敦賀開業を機に福井県への往訪回数が増えるか尋ねたところ、半数以上は「変わらない」を選択しており、開業による具体的な行動イメージはまだ浸透していない。一方、居住地別にみると、富山在住者の 4 割は「増えると思う」「少し増えると思う」と回答しており、他の居住者に比べ割合が高い。敦賀開業により福井と富山がつながることで、これまでより気軽に訪れてみたいと考える富山在住者が一定程度おり、誘客に向けては富山に向けた発信も効果がありそうだ。【図表 9】
- ・ さらに細かい分析はサンプル数が少ないため参考値にはなるが、性別・年代別に福井-富山の往訪回数の傾向をみると、富山在住者では「18-29 歳女性」と「60 代以上女性」、福井在住者では「18-29 歳女性」でそれぞれの県への往訪回数が「増えると思う」「少し増えると思う」の回答率が高い。性別や年代ごとの特色をとらえた、女性や若者が好む観光商品の設計・発信が有用だろう。【図表 9(参考)】
- ・ また、往訪回数は変わらないと思う/あまり増えないと思う/増えないと思うと回答した人に、「何があれば往訪回数が増えるか」を尋ねたところ、「交通費が安くなれば」「行ってみたい観光地が増えたら」に次いで「泊ってみたい宿泊施設があれば」が多く、魅力的な宿泊施設が往訪動機に繋がっている。【図表 10】

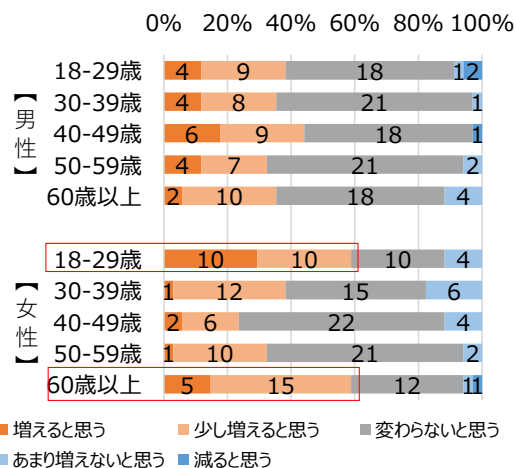
図表 9：居住地別・北陸新幹線敦賀開業後の福井県への往訪回数

北陸新幹線敦賀開業をきっかけに、福井県への往訪回数は増えると思いますか。【対象者：福井在住者以外(n=1,360)】

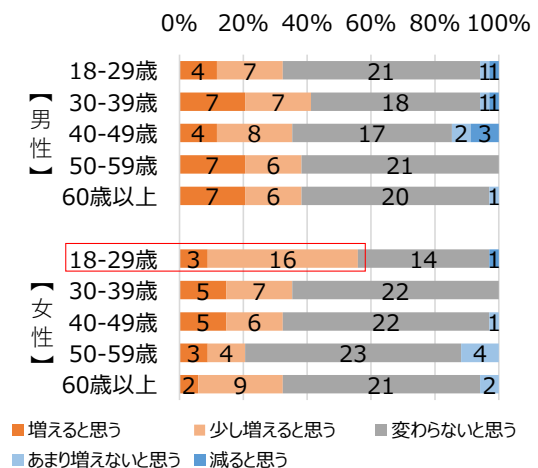


(参考) 福井/富山在住者・性別・年代別 北陸新幹線敦賀開業後の富山県/福井県への往訪回数

① 富山在住者の福井県への往訪回数(n=350)

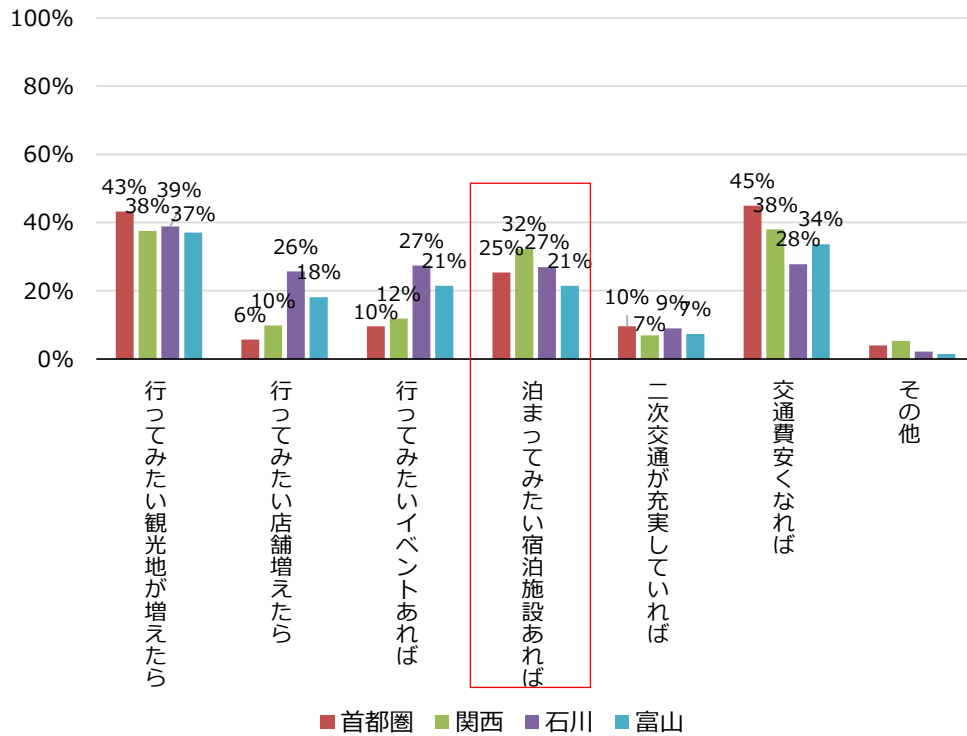


② 福井在住者の富山県への往訪回数(n=350)



図表 10：福井県への往訪に結び付く動機

何があれば訪問回数が増えると思いますか。（当てはまるものすべて）【対象者：福井への訪問回数は「変わらない/あまり増えないと思う/増えないと思う」と回答した福井在住者以外の回答者(n=913)】



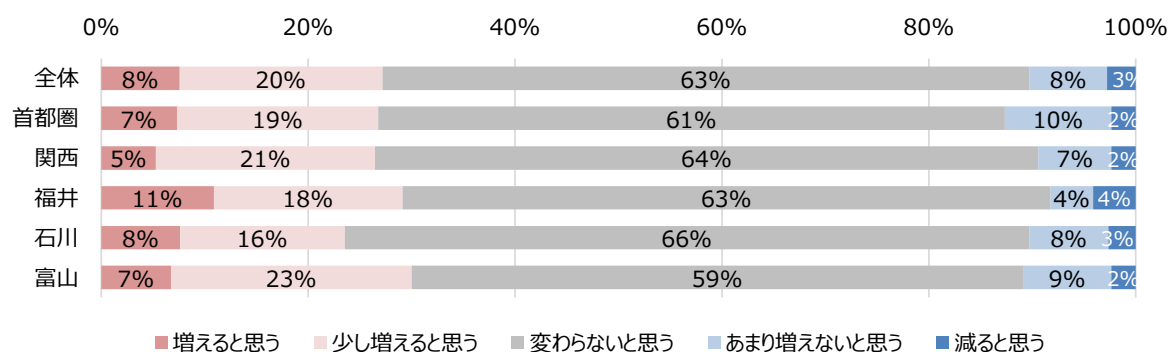
（６）宿泊日数の変化・宿泊したい施設

敦賀開業後、福井在住者の県内宿泊旅行が増える可能性。宿泊施設は「旅館」が群を抜いて人気。

- ・ 敦賀開業後の福井県での年間宿泊日数は「変わらない」が多いものの、増減のみに着目すれば「増えると思う」「少し増えると思う」の選択率が高く、敦賀開業が「宿泊を伴う福井訪問」という新たな機会創出につながる可能性を示唆している。また、居住地別では、福井在住者の「増えると思う」の回答率は他の居住者の回答に比べ高く、新幹線開業を機に宿泊を伴う県内旅行に出かけたいとするニーズもありそうだ。【図表 11】
- ・ 福井で宿泊したい施設のスタイルを尋ねたところ「旅館」の人气が高く、居住地域を問わず約 6 割が選択した。施設そのものはもちろん、周辺エリアの充実とあわせ魅力あるエリアを創出することで満足度を高め、宿泊を伴う訪問に繋げたい。【図表 12】

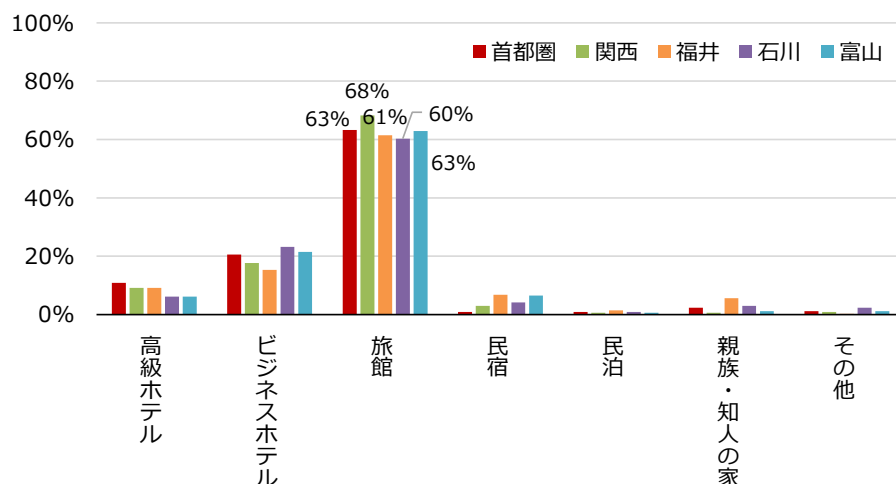
図表 11：居住地別・北陸新幹線敦賀開業後の宿泊日数の変化

北陸新幹線敦賀開業後に福井県に行く場合、年間の宿泊日数は変化すると思いますか。【対象者：全員(n=1,700)】



図表 12：観光目的で宿泊したい施設

敦賀開業後、観光目的で福井県に宿泊する場合、どんな宿泊施設に泊まりたいですか。【対象者：全員(n=1,700)】



（７）福井・首都圏間の移動ルート（敦賀開業前後）

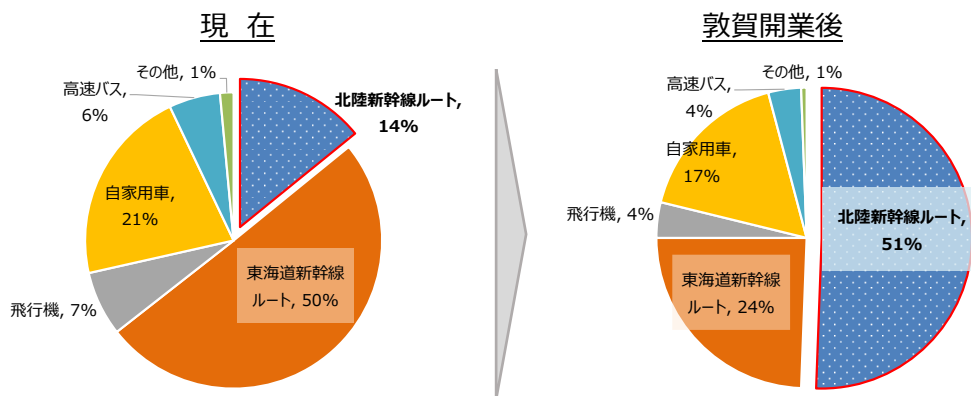
敦賀開業後は、過半数が「北陸新幹線ルート」を選択と回答。特に、福井在住者の回答率は14%→51%と大幅増。「東海道新幹線ルート」「自家用車」からの移行が想定される。

- ・ 福井在住者に対し首都圏往訪のルートを探ねたところ、「東海道新幹線ルート」が最も多く 50%が利用している。敦賀開業後の想定は、「東海道新幹線ルート」は 24%に減少し、51%が「北陸新幹線ルート」を利用すると回答した。「東海道新幹線ルート」「自家用車」からの移行が想定される。【図表 13】
- ・ 同様に、首都圏在住者に対し福井往訪のルートを探ねたところ、「北陸新幹線ルート」が最も多く 46%が利用しているが、敦賀開業後はさらに増加し 60%が利用すると回答した。一方、「東海道新幹線ルート」「自家用車」の割合は減少する。【図表 14】

図表 13：福井→首都圏の往訪ルート（現在と開業後の想定）

（現在）現在、首都圏に行く場合、最もよく利用する交通手段・ルートはどれですか。

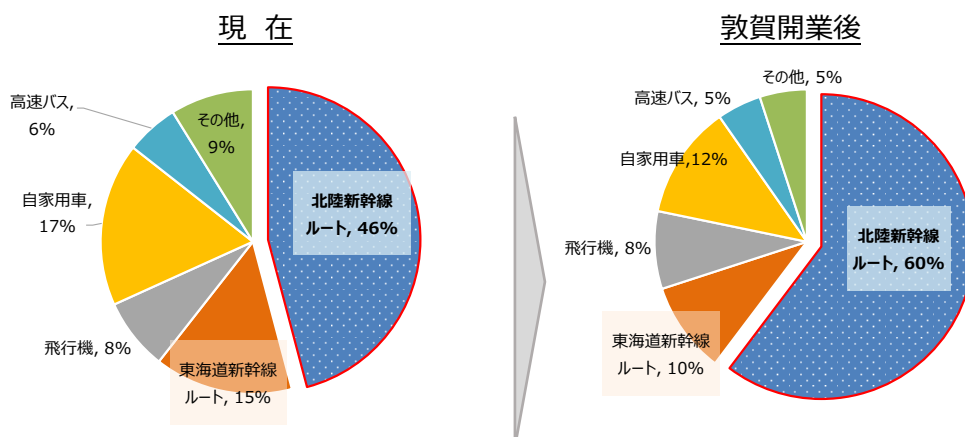
（敦賀開業後）2024 年春の北陸新幹線敦賀開業後、首都圏に行く場合、どの交通手段・ルートを最もよく利用すると思いますか。
【対象者：福井在住者(n=340)】



図表 14：首都圏→福井の往訪ルート（現在と開業後の想定）

（現在）現在、福井に行く場合、最もよく利用する交通手段・ルートはどれですか。

（敦賀開業後）2024 年春の北陸新幹線敦賀開業後、福井に行く場合、どの交通手段・ルートを最もよく利用すると思いますか。
【対象者：首都圏在住者(n=340)】



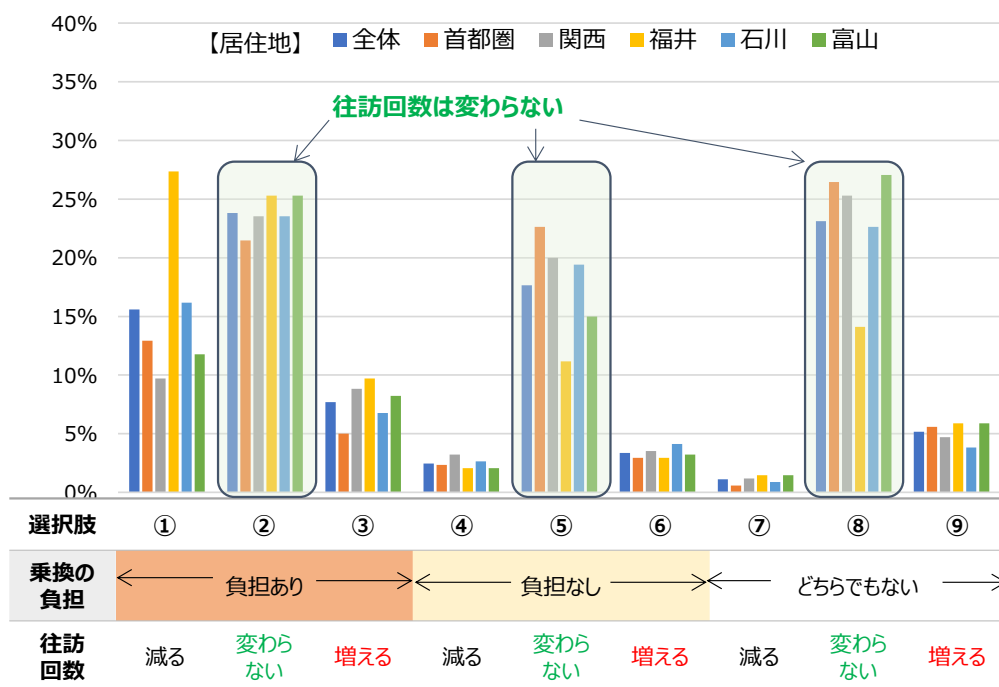
（８）乗換の負担と福井への往訪回数

乗換負担に個人差はあるものの、乗換による福井往訪回数への影響は小さい見込み。

- ・ 敦賀乗換の心的負担と実際の往訪回数の想定について尋ねたところ、乗換にある程度負担を感じる人はいるものの、「往訪回数は変わらない」人が多い。アンケートからは、乗換の有無が往訪回数に大きく影響を及ぼすことはなく、必要な往訪は実施するとみられる。【図表 15】
- ・ 一方、福井在住者の乗換に対する不安は他地域の居住者に比べ大きい。県内移動における乗換の負担軽減や乗換時間を快適に過ごす工夫など、心理的負担を少しでも取り除くこと、さらに、乗換負担を上回る「行ってみたい」と思わせる目的を提供することに、知恵を絞る必要があろう。

図表 15：敦賀乗換と福井への往訪回数

敦賀開業後、関西-敦賀以東の往来は、敦賀駅での乗り換えが生じる予定です。乗換と福井への往訪回数について、現在のあなたの考えに最も近いものをお聞かせください。（福井在住者は、県内往訪を想定して回答）【対象者：全員(n=1,700)】



- 【選択肢】
- ① 乗換は負担であり、福井への往訪回数は減ると思う。
 - ② 乗換はある程度負担ではあるが、福井への往訪回数は変わらないと思う。
 - ③ 乗換はある程度負担ではあるが、福井への往訪回数は増えると思う。
 - ④ 乗換に負担はないが、福井への往訪回数は減ると思う。
 - ⑤ 乗換に負担はなく、福井への往訪回数は変わらないと思う。
 - ⑥ 乗換に負担はなく、福井への往訪回数は増えると思う。
 - ⑦ 乗換にかかわらず、福井への往訪回数は減ると思う。
 - ⑧ 乗換にかかわらず、福井への往訪回数は変わらないと思う。
 - ⑨ 乗換にかかわらず、福井への往訪回数は増えると思う。

（９）金沢開業による石川・富山在住者の意識の変化：① 自分の生活

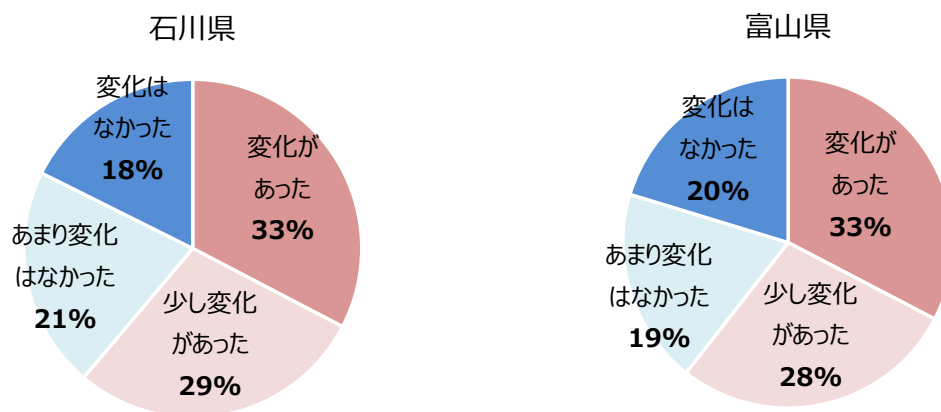
金沢開業により、石川・富山在住者の６割強が自分の生活に変化があったと回答。特に、首都圏への観光機会が増えたことを実感。

- ・ 2015 年に北陸新幹線が金沢まで開業した。石川および富山在住者に対し、新幹線が開通したことによる生活の変化を尋ねたところ、いずれも６割程度が何らかの変化があったと回答している。【図表 16】
- ・ 具体的な変化について、項目ごとにどの程度当てはまるかを尋ねたところ、最も大きな変化として挙げた項目は両県ともに「観光で首都圏に行く機会が増えた」となった。
- ・ 県内観光について尋ねると、富山在住者の「観光で、富山に行く機会が増えた」では 41%、石川在住者の「観光で、石川に行く機会が増えた」では 44%が「当てはまる」「まあ当てはまる」と回答し、他の項目と比較して相対的に高い結果となった。新幹線開業を契機に、まちに賑わいが生まれる、観光スポットが増える/見直される、といった二次効果がもたらされ、自県の観光(マイクロツーリズム)を促したともいえる。
- ・ さらに、「買い物先の行動範囲が広がった」に対しても、４～５割が「当てはまる」「まあ当てはまる」を選択した。移動時間が短縮されたことで、ショッピングなどの日常行動についても選択肢が増えたことがわかる。

【図表 17】

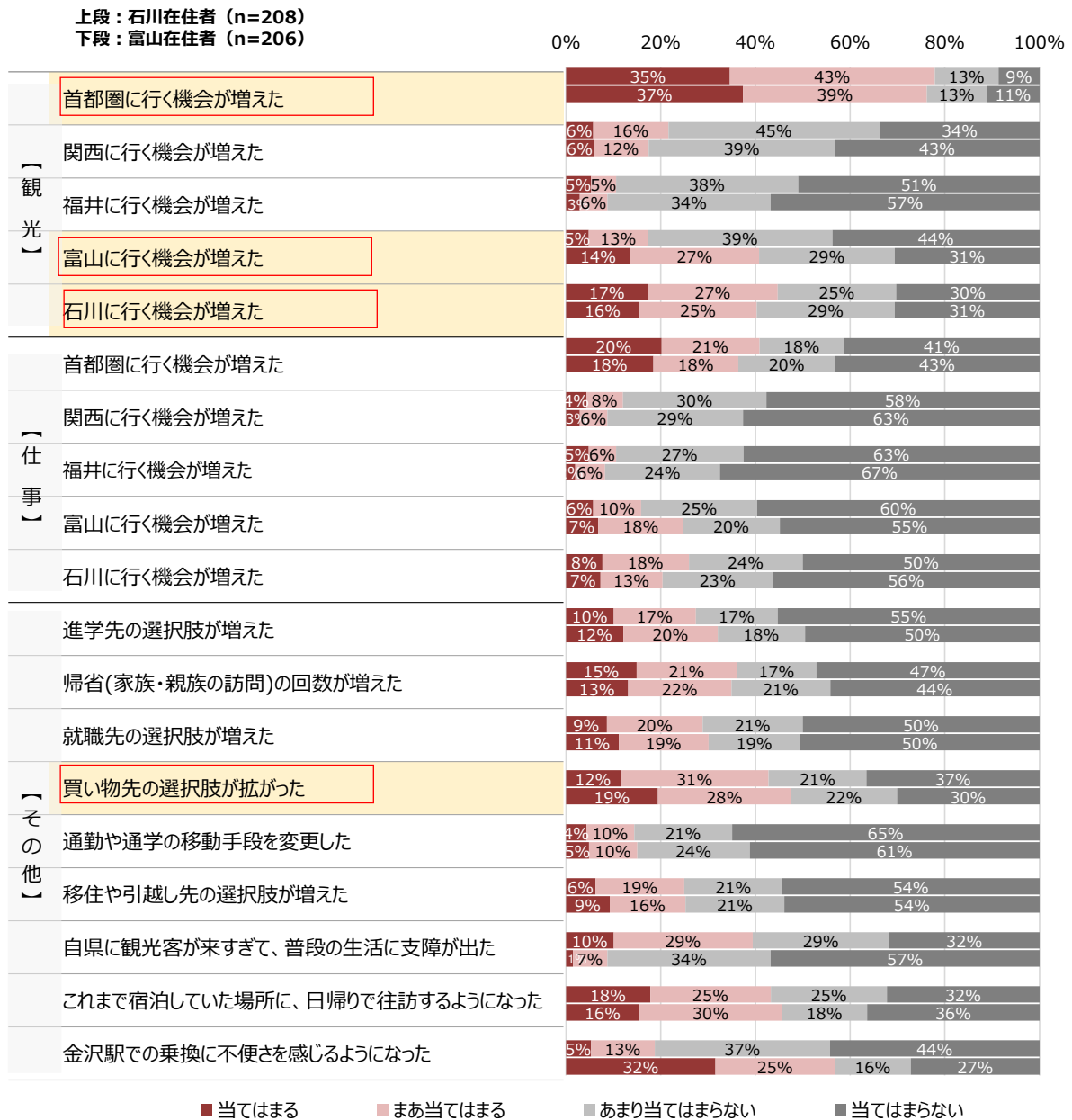
図表 16：金沢開業がもたらした生活の変化

2015 年の北陸新幹線金沢開業は、あなたの生活に変化をもたらしましたか。【対象者：石川・富山在住者(n=680)】



図表 17：金沢開業がもたらした具体的な生活の変化

それはどのような変化ですか。それぞれの項目について、当てはまるものをお答えください。【対象者：前問で変化があったと回答した石川在住者(n=208)・富山在住者(n=206)】



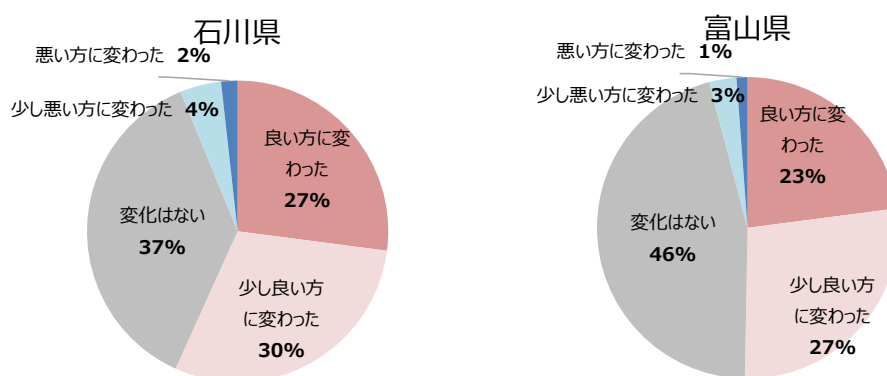
（10）金沢開業による石川・富山在住者の意識の変化：② 自分の地域のイメージ

金沢開業後、地域に対するイメージは過半数が良いほうに変化。観光客増加やメディア露出のほか、公共交通機関の魅力向上・駅前開発・まちづくり整備がシビックプライドに繋がっている。

- ・ 自分の住んでいる地域に対するイメージがどのように変化したかとの質問に対しては、「良いほうに変わった」「少し良いほうに変わった」と回答した人は全体で半数を超えた。【図表 18】
- ・ 具体的なイメージについて、項目ごとにどの程度当てはまるかを尋ねたところ、「観光客が増えた」「テレビや雑誌などで取り上げられる回数が増えた」「飲食店や商業施設が増えた」で「当てはまる」「まあ当てはまる」の選択率が高く、自分の地域が他地域から注目され、人が集まる地域になったと感じる人が多い。
- ・ また、「大都市圏との心理的距離の近さ」を挙げた回答者も多い。首都圏と結ばれたことで、観光客・ビジネス客などの‘人’はもちろんのこと、さまざまな‘情報’なども大都市圏から入ってくるようになり、心理的距離が近づいたと感じる住民が多いのではないかと。
- ・ 加えて、「まちの公共交通の魅力が向上した」「駅前開発やまちづくりが進んだ」との回答者も多く、特に「公共交通の魅力向上」では、富山在住者は 8 割超が「当てはまる」「まあ当てはまる」を選択した。駅整備に関しては、金沢駅の鼓門は地域の象徴的なアイコンとなり、富山駅は南北接続が完了し交通の結節点としての機能がさらに高まった。「花嫁のれん」や「べるもんた」などの観光列車や、色とりどりのライトレールなど、新しい車両がまちを走る姿は人々を惹きつけた。さらに、「まちのり(金沢市)」「アヴィレ(富山市)」などのシェアサイクルの仕組みも浸透した。北陸新幹線金沢開業を契機とした交通まちづくりにより、利便性だけでなく、地域への誇りや愛着(シビックプライド)をもたらすことが示された。【図表 19】

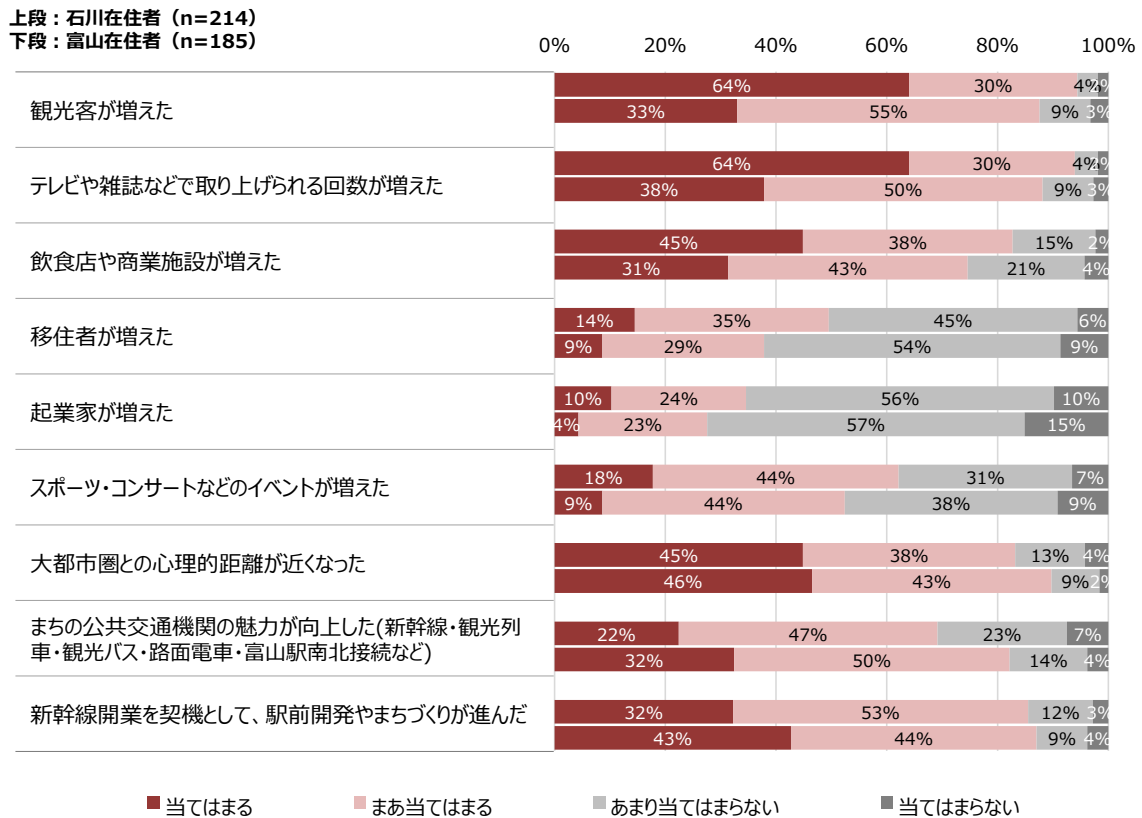
図表 18：金沢開業による地域のイメージの変化

2015 年の北陸新幹線金沢開業後、自分の住んでいる地域に対するあなた自身のイメージは変化しましたか。【対象者：石川・富山在住者(n=680)】



図表 19：金沢開業後に感じる地域のイメージの内容

それはどのような変化ですか。それぞれの項目について、当てはまるものをお答えください。【対象者：前問で変化があったと回答した石川在住者(n=214)・富山在住者(n=185)】



3. アンケート結果からの考察（目指すべき方向性に取り組むべき課題）

- ・ アンケート結果から、福井が開業効果を最大限に活かすためのポイントを整理した。

（1）首都圏への発信強化

アンケートでは、「敦賀開業を知らない」との回答が特に首都圏在住者に多く(55%)、開業により福井と直結する首都圏での認知度はまだ低い。一方、開業後の新幹線に「乗ってみたい(73%)」や、「旅館」に泊まりたい(63%)、泊まりたい宿泊施設があれば往訪回数は増える(25%)などの期待もうかがえる。

福井のイメージについて、「温泉」や「自然」で福井在住者と首都圏在住者の回答率に開きがある。さらに「具体的なイメージがない」との回答も首都圏在住者で高く(31%)、発信しきれていない観光資源もあると思われる。首都圏在住者が求める情報や伝えきれていない福井の魅力を、的確に、さらに強力に発信していくことが望まれる。

（2）福井県内の意識醸成

福井在住者の回答をみると、新幹線敦賀開業への関心や期待はあるものの、自身の生活への影響をイメージするにはまだ至らないことがうかがえる。

金沢開業前の石川や富山の取り組みを振り返ると、行政が旗振り役となり、観光事業者だけでなく市民レベルで、あらゆる年齢層に対し、観光客を受入れるための対話・講座・研修の機会を設け、地道に機運醸成に取り組んできた。増える観光客への備えや「おもてなし力」の大切さなど、地域一体となって新幹線開業後の姿をイメージすることで、少しずつ意識が醸成されていった。

福井においても同様に、開業後の地域の姿や自分の役割を想像することで、徐々に意識が浸透していくと思われる。加えて、こうした意識の高まりが、首都圏に向けた発信力強化(①)に繋がることも期待される。

（3）北陸地域内の需要喚起の余地 - 富山県の期待に着目

敦賀開業をきっかけに、「福井県への往訪回数が増える/少し増える」と回答した富山在住者は 39%と、石川在住者の 31%に比して高い結果となった。また、開業後に自身に起きる変化として、「観光で福井県に行きやすくなる」ことを想定する富山在住者の割合も 8 割にのぼる。敦賀開業に対する富山在住者の期待がうかがえ、福井にとっては新しいマーケットとして富山を位置づけることができそうだ。性別や年代による傾向の差もみられ、特色をとらえた観光商品設計が望まれる。

新幹線で北陸三県がつながることにより、北陸域内の交流促進の高まりが実現されよう。

（4）金沢開業による住民意識の変化から示唆される、開業を契機としたまちづくり

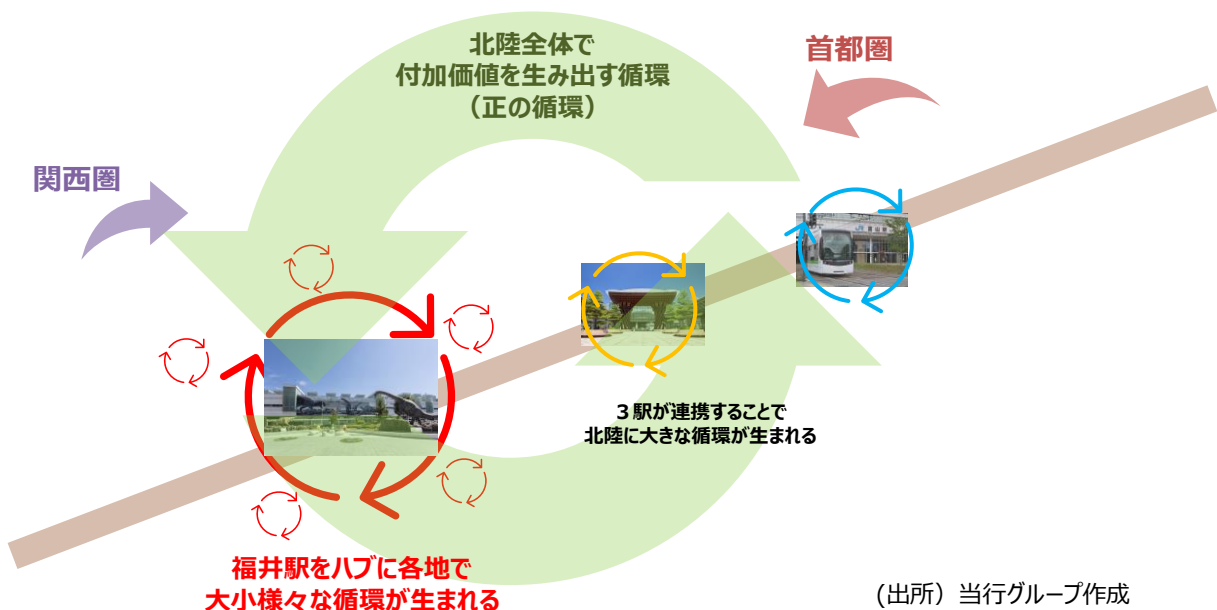
2015 年の金沢開業を経験した石川・富山在住者の意識をみると、「観光客が増えた」「メディアで取り上げられる回数が増えた」など、自分のまちが他地域から注目され、人が集まる地域になったことを変化に挙げる人が多い。加えて、新幹線を契機として「駅前開発やまちづくり整備が進んだ」「魅力ある公共交通が増えた」と感じる人も多く、自分の住むまちが視覚的に変化していく姿が、住民の地域に対する満足度を高めているようだ。

敦賀開業に向けても、首都圏など域外交流の利便性を高める手段としてだけでなく、開業を契機としたまちづくりを進め、'地域住民にとっての新幹線効果'に繋げる視点が重要である。

4. 福井開業を最大限に活用するために

- ・ 福井駅は、JR や鉄道各社、バスなど主要交通機関が集まる地域一の交通結節点である。新幹線開業後はさらに人や情報が集まり、地域の発信起点の場にもなる。開業効果を最大限もたらすためには、付加価値創出の基盤となる正の循環を生み出す「ハブ拠点」となる必要があり、そのためには、地域住民が「自分たちのまち」と感じられる場としての役割も重要となる。金沢駅の鼓門や富山駅のライトレール乗入れのように、シビックプライドにもつながるランドマーク性を、福井駅に重ね合わせていくことが求められる。
- ・ 現在、福井では、自治体・各団体を中心に、開業を見据えた準備が着々と進められている。福井鉄道の福井駅前への延伸やえちぜん鉄道との直通運転、駅前の恐竜展示拡充のほか、福井県観光連盟では、「デジタルマーケティングによる稼ぐ観光地域づくり」を目指し、外部専門人材を招聘した観光商品開発や観光事業者のサポート、SNS やウェブサイトを活用した情報発信を積極的に実施している。
- ・ また、QR コードを活用したマーケティングデータ(滞在履歴・感想など)の収集・事業者等へのデータ分析結果の提供にも取り組んでいる。マーケティングデータの価値は「福井への訪問」者が多ければ多いほど向上する。データ分析結果による気づきを地域が受容し変化していくことで、継続的な地域価値向上に結び付けることができるようになる。
- ・ 一方、当行アンケートで示唆されたように、特に首都圏に対して福井の情報が伝わりきれていない。開業への関心を「福井への訪問」に結び付けるためには、関係者が一丸となって工夫をこらした発信を続けていくことが求められる。その際、福井だけでなく、北陸三県が一体となり連携して「北陸」として発信することが、北陸地域ないし福井が敦賀開業効果を最大限に享受することにつながるのではないかと。
- ・ 新幹線が運ぶ新たな人流・ナレッジと迎え入れる地域とが、福井駅をハブに各地で交わることにより、福井全域に地域価値の向上をもたらす。その効果を最大化するため、①福井が地域外からの刺激を受け、地域自体が変わることで外部への関わりをよりできるようになること、②北陸地域内のハブとなる3駅(福井駅、金沢駅、富山駅)が連携していくことが重要であろう。

【福井駅をハブに生み出される正の循環(イメージ)】



【Appendix1】足下の北陸での‘つながる’動き

- ・ 北陸3県では、経済界や行政を中心に、北陸新幹線敦賀開業を見据え、‘つながる’動きが進んでいる。

①経済界（福井経済同友会と富山経済同友会の相互交流）

富山経済同友会では、2022年度より、敦賀開業後の観光振興を念頭に福井経済同友会との交流を始めた。敦賀開業後、富山-福井の所要時間は現在の約2時間弱→44分と大幅に短縮され、利便性が大きく高まる。これを好機ととらえ、北陸域内の観光(マイクロツーリズム)を推進し、経済活性化につなげることが狙いである。

まずはお互いの観光資源や観光への取り組みを知ろうと、6月には富山に福井県観光連盟を招き、福井の観光への知見を深めた。11月には、実際に福井へ視察団を派遣。福井経済同友会との意見交換を行う予定である。両経済界の親交・振興が深まることによる誘客・経済効果が期待される。

②自治体（北陸三県知事懇談会）

行政では、北陸三県知事の懇談会が2022年7月に初めて開催されるなど、三県が‘つながり’北陸一体で観光連携していく動きが始まった。トップのメッセージが打ち出された段階ではあるが、今後出来る分野から具体的に取り組み、各県が持つ観光資源をセットにし「北陸」地域全体として発信することで、数多くある観光地のなかから北陸が「選ばれる観光地」となることが期待される。

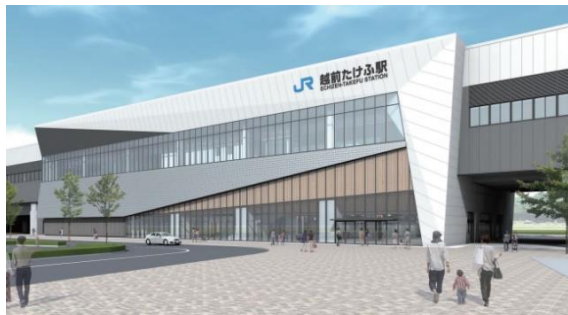
③福井県内（県都グランドデザイン：福井商工会議所、福井県、福井市）

福井商工会議所・福井県・福井市が共同で立ち上げた「県都にぎわい創生協議会」では、2040年の福井駅周辺の将来像を示した「県都グランドデザイン」を策定した。一般的に、行政と経済界が一体となり、将来の姿を議論しながら取りまとめることは珍しいが、福井県内では、複数の機関・団体による連携が始まっている。

④事業者・経済界・行政（Japanese Beauty Hokuriku キャンペーン：JR東日本・JR東海・JR西日本・北陸三県誘客促進連携協議会）

北陸三県の自治体及び各県観光連盟・観光推進機構、北陸経済連合会、JR西日本金沢支社で構成する「北陸三県誘客促進連携協議会」では、JR東日本・JR東海・JR西日本と連携し、「Japanese Beauty Hokuriku キャンペーン」を実施する(2022年12月～2023年3月)。“日本の美は、北陸にあり”をメインテーマに、「美食」・「美観」・「美技」・「美湯」・「美心」をコンセプトに、「北陸」としての魅力を複合的に発信する。

【Appendix2】北陸新幹線敦賀開業により新たに設置される駅の概要

小松駅	加賀温泉駅
 ・ふるさとの伝統を未来へつなぐ『ターミナル』 ・慣れ親しんだ白山の雄大な山並みと未来を感じるターミナル	 ・加賀の自然と歴史、文化を見せる駅 ・温泉郷の風情と城下町の歴史を感じさせる駅
芦原温泉駅	福井駅
 ・あわらの大地に湧き出る贅の駅 ・あわら温泉の癒しと旅情が漂う駅	 ・太古から未来へ ～悠久の歴史と自然がみえる駅～ ・悠久の歴史を未来へつなぐシンボルゲートとなる駅
越前たけふ駅	敦賀駅
 ・伝統・文化を未来につなぐシンボルとしての駅 ・コウノトリが飛翔する未来への道標となる駅	 ・空にうかぶ ～自然に囲まれ、港を望む駅 ・煌めく大海から未来へ飛翔する駅

(出所)「北陸新幹線 金沢・敦賀間 地域に愛される駅をめざして」(JR TT 鉄道・運輸機構)をもとに当行作成

(注) イメージ画下のフレーズは、上段がデザインコンセプト、下段はデザインイメージを示す。

【Appendix3】これまで公表した新幹線/観光関連の当行レポート

公表年	タイトル
2013 年	北陸新幹線金沢開業による石川県内への経済波及効果
2015 年	北陸地域における産業観光の可能性について
2016 年	北陸新幹線金沢開業による観光活性化が石川県内に及ぼす経済波及効果 - 交流がもたらす経済波及効果は 678 億円 -
2016 年	北陸地域における観光マーケティングの必要性 - DBJ・JTBF アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査より -
2017 年	北陸新幹線開業を契機とした金沢市内におけるホテル投資動向
2019 年	北陸新幹線敦賀開業による福井県内への経済波及効果 - 観光・ビジネス両面からの交流人口増加がもたらす経済波及効果は推計 309 億円 -
2020 年	富山・石川・福井県民のマイクロツーリズムに対する意識調査
2021 年	新幹線の経済・社会効果 ～2010 年以降の 3 県経済のふり返りから～
2021 年	新幹線の経済・社会効果 ～新幹線で動き出した福井市の街づくり～
【つながる北陸】新幹線レポート	
2022 年	「つながる北陸」新幹線レポート：vol.1 越前たけふ駅 “the ECHIZEN” ～越前たけふ駅が呼び覚ますゲニウス・ロキ～

レポートの全文は、当行ウェブサイトで公表しております。

©Development bank of Japan Inc.2022

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引等を勧誘するものではありません。本資料は当行が信頼に足ると判断した情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しましては、ご自身の判断でなされますようお願いいたします。本資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されています。本資料の全文または一部を転載・複製する際は、著作権者の許諾が必要ですので、当行までご連絡ください。著作権法の定めに従い引用・転載・複製する際には、必ず、『出所：(株)日本政策投資銀行』と明記して下さい。

(お問い合わせ先)

株式会社日本政策投資銀行 北陸支店 企画調査課（電話：076-221-3216／E-mail：hrinfo@dbj.jp）